

荷役作業時に抑えておくべきポイント

－安全なフォークリフト作業のために－



MSIG

三井住友海上火災保険(中国)有限公司

A Member of **MS&AD** INSURANCE GROUP

瑛得管理咨询(上海)有限公司

インターリスク上海

InterRisk Consulting (Shanghai) Co., Ltd.

インターリスク上海について（親会社＝MS&ADインターリスク総研）

三井住友海上を中核とする**MS&ADインシュアランスグループ**の一員です。
2010年より、在中国の企業におけるリスクマネジメントに関するコンサルティングサービスをご提供しています。

弊社の強み 1

中国のリスク実態に精通した経験豊富なコンサルタント

- ・防災・安全の難関資格「注册安全工程師」や「一級注册工程師」のライセンスを有する、経験豊富な中国人コンサルタントを擁しています。
- ・防災・安全のサービスとして、年間200件以上の現場調査を実施しており、工場や倉庫のリスク実態を熟知しています。
- ・MS&ADインターリスク総研より派遣された日本人コンサルタントは、様々なリスク分野に精通しています。

弊社の強み 2

MS&ADインシュアランスグループの厚みある知見・ノウハウ

- ・MS&ADグループがこれまで国内外で積み重ねてきた知見・ノウハウを、貴社のリスクマネジメント向上のためにご提供できます。
- ・幅広い企業規模、業種におけるリスクマネジメントに関して、国内外で豊富なコンサルティング実績を有しています。
- ・お客様のご要望に応じて、MS&AD インターリスク総研（本社）と連携し、より専門的なコンサルティングサービスをご提供できます。

弊社の強み 3

日系損保グループでは中国唯一のリスクコンサルティング会社

- ・日系の損害保険グループにおいて、中国に拠点を置く唯一のリスクマネジメント専門のコンサルティング会社です。（損保会社自身は、ライセンス上、有償を前提としたコンサルティングサービスは禁じられています。）
- ・設立以来10年にわたり、中国における様々なリスクへのソリューションの開発を実現してきました。

弊社の強み 4

幅広い分野のリスク関連レポートを提供

- ・「中国風険消息」等の情報誌にて、中国の日系企業を取り巻く様々なリスクについて最新情報をご提供しています。
- ・日系企業の安全に広くお役立ちするため、レポートの多くは日・中両言語で作成し、ホームページで無償公開しています。

■阿部 龍之介（あべ りゅうのすけ）

瑛得管理咨询（上海）有限公司 <インターリスク上海> 咨询部 经理

経歴

- ◆メーカーにおいて、ガス精製プラントの電気保全業務に従事。
- ◆MS&ADインターリスク総研（株）に入社後、火災・労災・自然災害などのリスクを対象とした防災調査（工場・一般商業施設など）、労働安全衛生講演などの業務に従事。
- ◆2020年よりインターリスク上海に所属し、防災・BCP等の各種支援業務に従事。

資格等

- ◆第一種衛生管理者 ◆公害防止管理者（水質第一種）
- ◆危険物取扱者（乙4） ◆毒物劇物取扱責任者 ◆防火管理者 ◆防災管理者
- ◆フォークリフト技能講習修了 ◆有機溶剤作業主任者

1. フォークリフトとは…
2. 事例から見る安全対策
3. リスク低減に向けた安全活動
4. 本日のポイント



1. フォークリフトとは・・・

1. フォークリフトとは・・・

フォークリフトの歴史

1950年代 戦後、様々なメーカーが開発に参入
1967年 JIS規格改正（産業車両）

様々な形状のフォークリフトが開発
・カウンターバランス式
・リーチリフト式

バッテリー式の普及

ヘッドレストとバックレストが標準装備

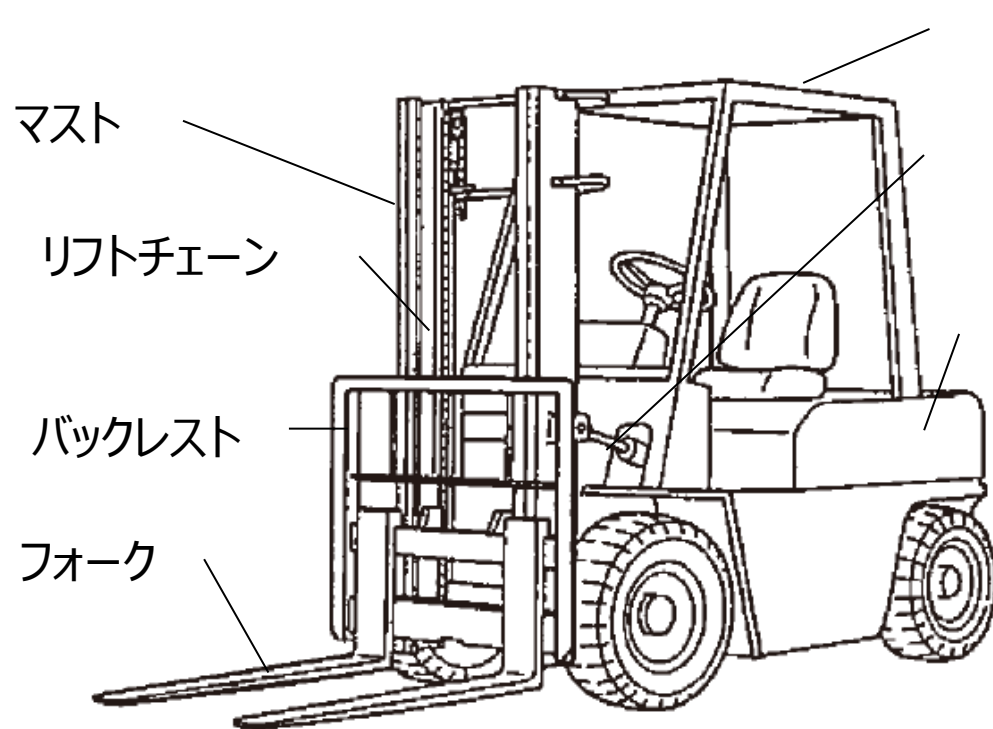
＜第2次世界大戦中のフォークリフト＞



（出典：U.S. National Archives and Records Administration）

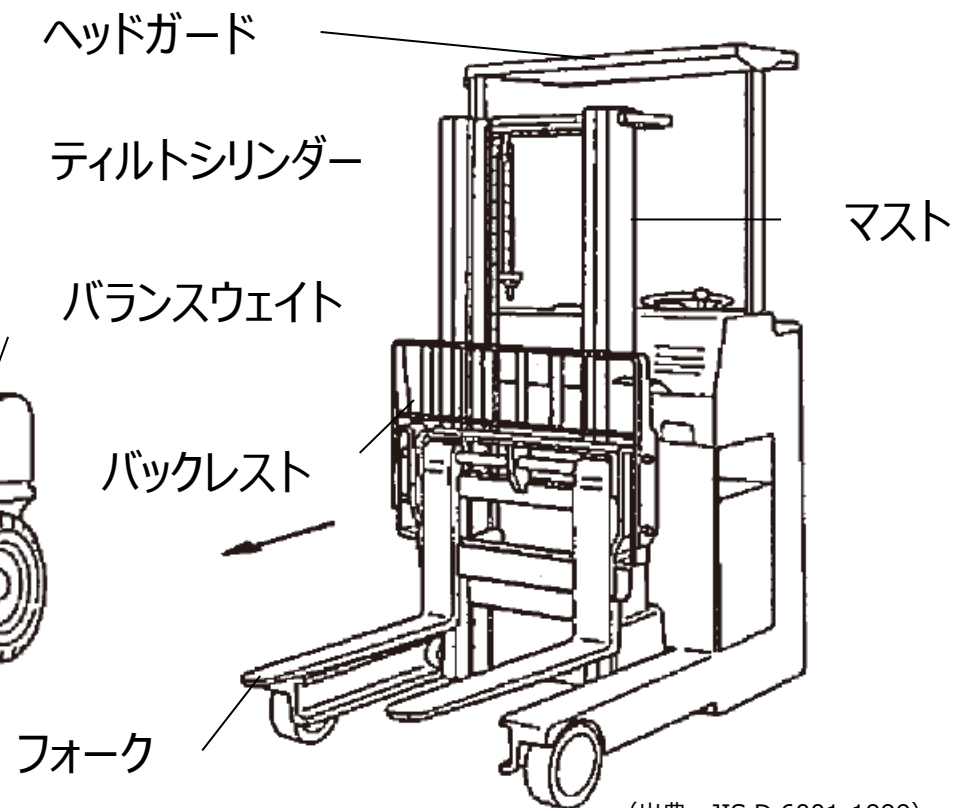
フォークリフトの種類・各部名称・役割

カウンターバランス式



(出典 : JIS D 6001:1999)

リーチリフト式

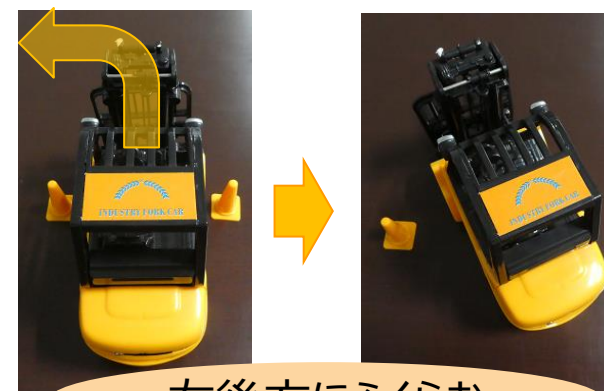


(出典 : JIS D 6001:1999)

主なフォークリフトの特性

特性	注意すべき点
外輪差・後輪操舵	<ul style="list-style-type: none"> ✓ フォークリフトが曲がる時には後輪が動くため、車体の後方が大きく外側に動く。 ✓ 周囲に人がいないことを確認する。
重心位置	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 車体自体が小型であり、かつ車体の前面に荷物を運ぶフォーク（ツメ）がついているため、前傾しやすい。 ✓ 荷を上げた状態での急制動は行わない。 ✓ 車体後方にウェイトがあるため、最大荷重1.5tの車両でも重量が2.5tを超過している。
最大・許容荷重	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 荷が重すぎると、車体が前傾となるため、荷が最大・許容荷重を超えないよう確認する。 ✓ 慣性により荷が前に転倒しないよう、急ブレーキを行わない。
車輪の大きさ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 切れ角が大きいいため、後進時にハンドルを切りすぎると、急激に振り回されてしまう。 ✓ ハンドルを切る前は減速し、曲がり切ってから加速する。

<外輪差・後輪操舵イメージ>



右後方にふくらむ

<最大・許容荷重イメージ>



荷が重すぎると・・



2. 事例から見る安全対策

2. 事例から見る安全対策

荷役作業とは



荷 役
① はいくずし
② 横持ち
③ 積み付け

運 搬
④ 構 内
⑤ 構 外 (輸送)

荷 役
⑥ 取り卸し
⑦ 横持ち
⑧ はい付け

(出典：陸上貨物運送事業 荷役災害防止マニュアル)

陸上貨物運送事業における労災の70%が荷役時に発生

荷役運搬機械災害における労災の70%がフォークリフト

<転倒>



概要

フォークリフトを運転して資材置き場まで移動中、建物の角を右折したところでフォークリフトがスリップし、転倒した。運転者は車外へ投げ出され、転倒したフォークリフトの下敷きとなり死亡した。

原因

- 無資格者が運転していた。
- 点検や整備が適切に行われていなかったため、タイヤがすり減り摩耗した状態が放置されていた。
- シートベルトを装着していなかった。

対策

- フォークリフトの技能講習修了者の名簿を作成し、関係者に周知するとともに無資格者の運転を禁止する。
- 始業前点検及び月次点検で異常がないことを確認し、異常があれば整備した後に使用する。
- 運転する際には必ずシートベルトを装着させる。

ルール1：フォークリフトの点検・定期自主検査を確実に実施しよう！

異常のあるフォークリフトの使用は事故につながる

<対策>

- 年1回の定期自主検査を適切に実施する。
- 月1回の定期自主検査を適切に実施する。
- その日の作業開始前に、始業点検を実施する。



これはダメ！
形だけのチェックで点検が形骸化している

GB/T 36507-2018 工业车辆 使用、操作与维护安全规范

4.4 毎日の始動前点検

車両を始動させる前には、運転者は安全な走行を確保するために、車両の状態を確認する必要がある。

<転倒>

<現場調査で見受けられる事象>

- ✓ フォークリフトが構内の制限速度を超過して走行する。
- ✓ 右折・左折時に必要以上にスピードを出して走行している。
- ✓ 走行する道路が凸凹しており、段差を通行する際に車両が上下に大きく揺れる。
- ✓ タイヤが摩耗しているが、特にタイヤ交換等の対策を講じていない。
- ✓ 各種点検（日常・月次・年次）が形骸化しており、異常があっても放置されたままとなっている。
- ✓ 安全保護具（ヘルメット、シートベルト等）を適切に着用していない。

<労災防止に向けた取組事例>

- ✓ 速度制限管理を徹底する（例：一定以上の速度とならないよう、フォークリフト本体にリミッターをつけるなど）。
- ✓ カーブを曲がる際は必ずスピードを落とし、徐行運転する。
- ✓ 構内でフォークリフトが走行する際にリスクが有る箇所を、あらかじめ洗い出しておく。
- ✓ 中長期的に構内道路の舗装等を計画する（車両が走行する頻度が高い場合）。
- ✓ 走行時にリスクを有する箇所を通行せずに、同様の作業を行うことができないか検討する。
- ✓ タイヤの摩耗等をはじめ、車両の破損状況等について必ず点検項目に盛り込む。
- ✓ 点検時に異常・不備が確認された場合には、速やかに改善策を講じる（時間・費用を要する場合は暫定的な対策を講じる）。
- ✓ 定期的に点検の実施状況や安全保護具の着用状況について現地確認する。

<墜落・転落>



概要

物流倉庫の構内プラットフォームにおいてフォークリフトで作業していたところ、プラットフォーム（高さ1m）から車体ごと後方に転落し、投げ出された運転者が死亡した。

原因

- 作業計画および作業手順書と異なる方法で作業が行われていた。
- 車止めが設置されていたが、損傷したまま補修されていなかった。
- 運転者は経験2か月の未熟練者だった。

対策

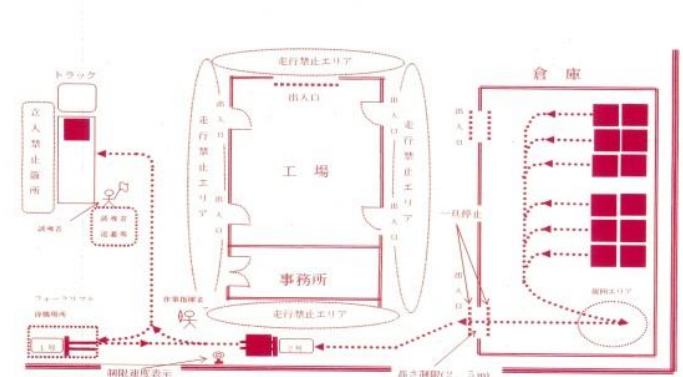
- 作業計画を作成し、作業指揮者を選任して、その者に作業を指揮監督させる。
- 車止めの設置および車止めが損傷している場合は補修する。
- フォークリフトの操作に慣れていない場合は、一定期間は指導者の指導の下で作業を行う

ルール2：作業計画を定め、関係労働者に周知しよう！

計画なく作業させると**危険作業**につながる

<対策>

- 作業場所の広さ、機械の能力、荷の種類及び形状等
- 運行経路及び作業方法



これはダメ！

作業計画はあるが、運行経路等が記載されていない

GB/T 36507-2018 工业车辆 使用、操作与维护安全规范

4.2.3 運転者は周辺作業、保管物等の周辺環境を十分に把握しておく必要がある。

4.5.1.6 運転者は走行時における状況（リスク等も含む）に関する十分な知識を持ち、かつ周辺に注意を払いながら対応する必要がある。

<墜落・転落>

<現場調査で見受けられる事象>

- ✓ 停車しているフォークリフトのフォーク（ツメ）を足場や階段として使用し、プラットホームに上る。
- ✓ プラットホームの端部周辺を走行する。
- ✓ ピッキングフォークリフトでは、安全帯を使用しているが、胴ベルトタイプである（万一墜落した場合、内臓破裂の可能性が有る）。

<労災防止に向けた取組事例>

- ✓ フォークリフトの用途外使用を行わない。
- ✓ フォークリフトの運転席以外の箇所に人を乗せない。
- ✓ 転落が想定されるエリア周辺は走行しない。
- ✓ 高所作業（2m以上）を行う際には、作業足場の設置や高所作業台・高所作業車の使用を徹底する。
- ✓ ピッキングフォークリフトでは、胴ベルトタイプではなく、フルハーネスタイプの安全帯を着用する。
- ✓ 高所作業については、作業場所の状況（地形、広さ、高さなど）を検討したうえで、作業計画を作成し、作業者に周知する。
- ✓ 墜落の危険を伴う作業については、あらかじめ墜落防止対策や保護具の使用方法等に関する安全教育を行う。あわせて事故事例についても紹介する。

<激突され>



概要

トラックに荷積みするプラットフォームにおいて、歩行中の作業者が旋回中のフォークリフトの後輪にひかれて転倒、死亡した。

原因

- 歩行通路に障害物が置かれ、歩行通路が使用困難な状況であった。
- フォークリフト作業指揮者が作業を兼務しており、周囲の安全確認を怠り運転を行った。
- 作業者がフォークリフトに近寄り歩行した。

対策

- 歩行通路には障害物を置かず、常に有効な状態を保持する。
- フォークリフト作業指揮者が作業指揮を確実に行える体制を整える。
- フォークリフトの運転者に対しては、周囲の安全を確認して運転を行うように安全教育を徹底する。
- 他の作業者については、必ず歩行通路を利用するように徹底する。

ルール3：前方の視界が確保できないときはバック走行しよう！

視界不良のまま前進すると**接触**事故につながる

<対策>

- 荷役作業中はバック走行する
- 右後方、左後方を確認してから発進する
- 見通しの悪い箇所は一旦停止する



これはダメ！

積荷で前方が見えにくい、歩行者もいないため前進走行した

GB/T 36507-2018 工业车辆 使用、操作与维护安全规范

4.5.1.7 走行中に貨物が運転者の視界を妨げる状態で運搬作業を行う場合には、後進走行すること（上り勾配は除く）。または、2人作業体制（車両前方の作業者が指示する）を採用し、運転者は歩行速度程度で走行する必要がある。

ルール4：走行経路を明示し、歩行者を立ち入らせないようにしよう！

思わぬ場所で接触事故がおこる

<対策>

- 混在作業になる場合は誘導者を配置
- 回転灯や音で接近を警告
- 歩行通路に障害物を置かない



これはダメ！

歩行通路に障害物が置かれていたので作業エリアに入った

GB/T 36507-2018 工业车辆 使用、操作与维护安全规范

4.5.1.6 運転者は走行時における状況（リスク等も含む）に関する十分な知識を持ち、かつ周辺に注意を払いながら対応する必要がある。運転中は走行経路が専用されていないかを確認すること。カーブを曲がる際、交差点など視界が遮られる可能性のある場所（近くに別の車両や歩行者がいる場所）では、警笛を鳴らして減速・停止した後、低速で安全に通行する必要がある。。

<激突され>

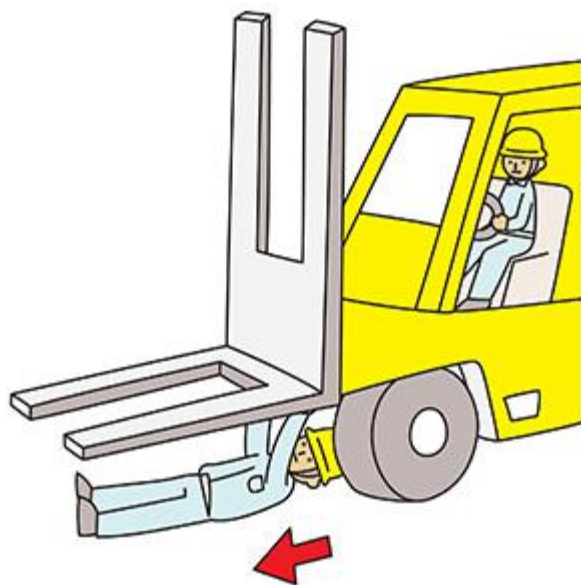
<現場調査で見受けられる事象>

- ✓ 確認不足（特に後方）により、フォークリフトと周辺作業者が接近する。
- ✓ 車路を歩行者が通行する（または、歩行者用通路をフォークリフトが通行する）。
- ✓ 車路と歩行者用通路が分離されていない。
- ✓ フォークリフトが構内の制限速度を超過して走行する。

<労災防止に向けた取組事例>

- ✓ 周辺作業者は不用意にフォークリフトに近づかない。
- ✓ 回転灯や警報装置を設置し、周辺作業者へフォークリフトの接近を知らせる。
- ✓ 歩行者通路と車路を明確に区分する。
- ✓ 歩行者通路への保管物の仮置き等を禁止し、歩行者が車路を歩行しないよう管理する（整理整頓を徹底する）。
- ✓ 速度制限管理を徹底する（例：一定以上の速度とならないよう、フォークリフト本体にリミッターをつけるなど）。
- ✓ 走行する際には、必ず周囲に作業者がいないことを確認する。
- ✓ 混在作業（異なる事業者の労働者がそれぞれの事業者の指揮系統で同時に行う作業状態）が多い職場においては、作業指揮者を配置し、複数名で作業を行う。
- ✓ 運転者をはじめ、周辺作業者に対し、フォークリフトとの接触に関する危険性について安全教育を行う。あわせて事件事例についても紹介する。

<はさまれ・巻き込まれ>



概要

フォークリフトの修理点検依頼を受け、前面下部に潜り込んで点検していた。点検中と知らされていない関連会社の社員がエンジンを起動して発進させたため、点検作業をしていた被災者が轢かれ負傷し、死亡した。

原因

- エンジンキーが入れたままでフォークリフトが運転できる状態にあった。
- 立会者が別のオペレーターに監視を頼まず現場を離れた。
- 起動時に前後・左右・下部を確認しなかった。

対策

- フォークリフトのキーを抜き、管理を徹底する。
- 立会者は現場から離れないこと。やむをえず現場を離れる場合には、別のオペレーターに監視を依頼する。
- フォークリフトの起動時は周囲（死角部分）をよく確認してから起動する。
- フォークリフト用のジャッキを使用する。

ルール5：運転者がフォークリフトを離れる時は必ずキーを抜こう！

キーの付けっぱなしは**事故**のもと

<対策>

- 駐車ブレーキをかける
- キーを抜いて確実に管理する
- フォーク等の荷役装置を最低降下位置に置く



これはダメ！

フォークリフトにキーが挿入されたままであれでも使える状態である

GB/T 36507-2018 工业车辆 使用、操作与维护安全规范

4.7.1 車両が停止している際は、運転者は下記の対応を行うこと。

- c) ブレーキを掛ける
- d) リフト（ツメ）を一番低い位置まで下ろす。
- f) キーを抜いて管理する。また、これらは明確な指示なく、他人に貸与してはならない。

<はさまれ・巻き込まれ>

<現場調査で見受けられる事象>

- ✓ エンジンのかけたままフォークリフトを降り、車両の周辺で作業を行う。
- ✓ フォークリフトから身を乗り出して、荷を触ろうとする。
- ✓ 停車しているフォークリフトと壁の間を歩行者が通行する。
- ✓ 荷を高く積んだ（前方の視界を確保しづらい）状態のまま、フォークリフトで前進走行する。
- ✓ フォークリフトで走行しながら、レバー操作を行う。
- ✓ 周辺作業者がいるにもかかわらず、フォークリフトが急発進する。

<労災防止に向けた取組事例>

- ✓ 運転席から離れる場合には、エンジンを停止し、かつ確実にブレーキを使用し、停止状態を保持する。
- ✓ 運転席を離れる際には荷役作業の操作ができなくなるインターロック機構などを採用する（マストへのはさまれ防止）。
- ✓ 荷役操作作業が可能な状況下において、フォークリフトから身を乗り出して作業しない。
- ✓ あらかじめ荷の梱包・積み方・重心位置の確認を徹底し、荷崩れ等の不測の事態が発生しないよう対策を講じる。
- ✓ 積荷などで前方の視界を確保できない場合には、バック走行で運搬する（走行前には確実に右後方、左後方を確認する）。
- ✓ 走行経路に不整地・段差がある場合には、減速して走行する。
- ✓ 誤った荷役操作により発生しうる事故などの危険性について安全教育を行う。



3. リスク低減に向けた安全活動

3. リスク低減に向けた安全活動

絶対安全はない ⇒ 潜在する危険を知っておくことが重要



✓ 頭の片隅に「出現しそうなこと」を置いておくと、危険に気付く可能性が高まる

- A. 災害事例を知る
- B. ヒヤリハット活動を実施する（ヒヤリハットを共有する）
- C. **危険予知（KY）活動**を実施する

など

危険を回避し、事故が発生する確率を下げる



A. 災害事例を知る

発生状況の概要
被災者は、建設工事現場から車で帰社途中、前方車からの落下物を避けようとして車が横転し、前方車に衝突した。
RC造新築工事で、被災者が作業構台の端から地下階の状況を確認していたところ、旋回した移動式クレーンと作業構台の手すりの間に挟まれた。
被災者は、3階建の建物の外壁補修工事で、外部足場と建物躯体に足を乗せて既存の外壁コーキング材の撤去作業を行っていたところ、約2メートルの高さから墜落した。

出典：厚生労働省 東京労働局HP

＜事実＞

外部足場で作業中、2mの高さから落下し、死亡した。

この情報を得るだけでは不十分！！

不安全行動
「ヒト」

不安全状態
「モノ」

何が原因で発生したのかを考える

3. リスク低減に向けた安全活動

B. ヒヤリハット活動（ヒヤリHiyari ハットHat）

ヒヤリ・ハットとは

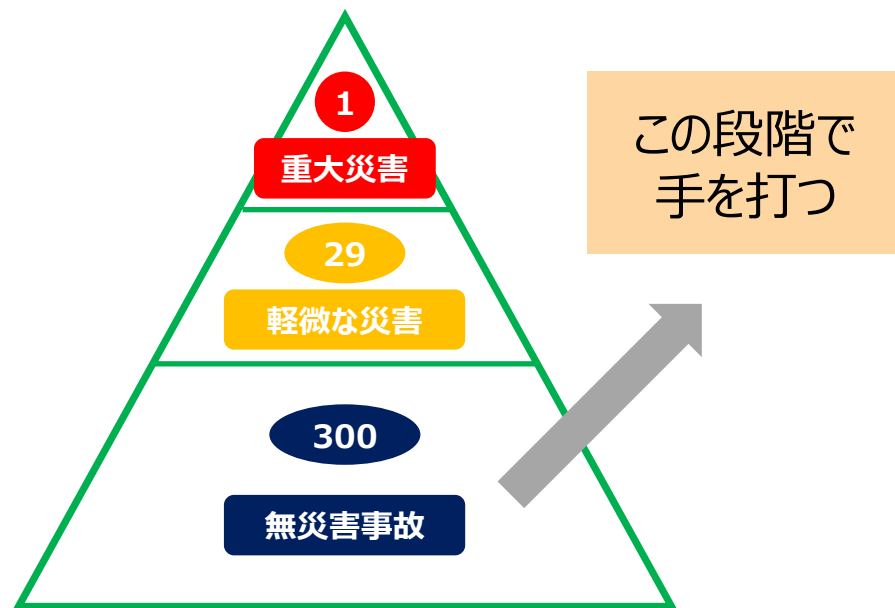
災害までにはいたらなかったけれども、ヒヤッとした、ハットしたこと

ヒヤリ・ハット活動

体感したヒヤリハットを全員参加で共有して対策をうつ活動

ハインリッヒの法則とは

1つの重大災害に至るには、
その前に29の軽微な災害があり、
その前には300の災害に至らない
「ヒヤリハット」が存在する
という調査データに基づいた法則



3. リスク低減に向けた安全活動

ヒヤリ・ハット活動の狙い（効果）

現場で働く従業員が自らの手で触り、目で見え、体験した危険を発見し報告する

危険感受性の向上

こうした危険が災害に結び付かないように

- ・排除する
- ・直ちに応急措置を講じる
- ・速やかに恒久措置を講じる

労働災害の未然防止

ヒヤリハット報告時のポイント

1. いつ、どこで、何をしていた時か
2. 作業環境、機械設備、作業方法に問題がなかったか
3. 作業者自身の心身の状態はどうであったか
4. 作業者からの意見、対策を出させる

ヒヤリハットの留意点

1. **報告者を責めてはいけない、むしろ歓迎すべきである**
2. 安全活動の見直しの良い機会としてとらえる
3. 社内報、イントラネット、掲示板などで情報共有する
4. ヒヤリハット報告を分析する
5. 報告のキャンペーン期間を設ける
6. **対策をフィードバックする**
7. リスクアセスメントの危険有害要因に活用する

3. リスク低減に向けた安全活動

C. 危険予知（KY）活動

現地KY

現場で作業を開始する前に、その作業に伴う危険に関する情報をお互いに出し合ったうえで話し合い、危険のポイントと行動目標を定め、共有化するもの。

一人KY

作業開始直前に一呼吸（深呼吸）して、個々人で危険予知を行うもの。自問自答の形で最終確認を行うことにより、ケガの予防、作業ミス・ヒューマンエラーの防止といった、危険の芽の摘み取りを行う。

⇒「自分の身は自分で守る」という意識を強く持つ

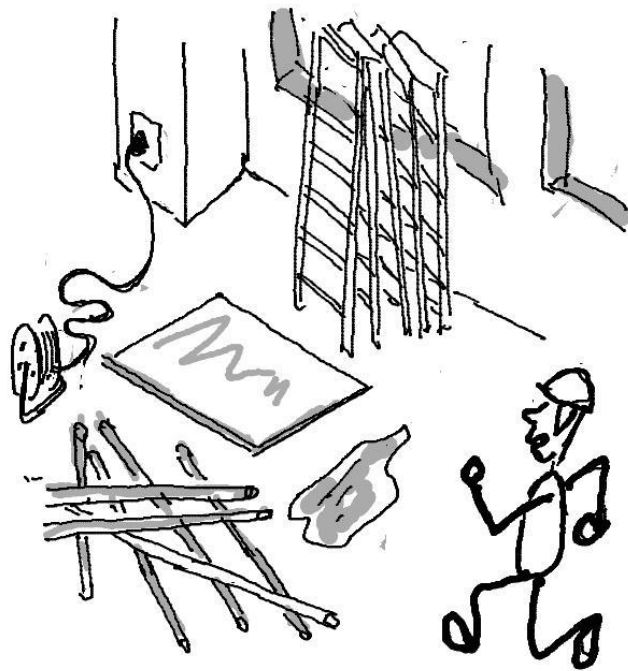


3. リスク低減に向けた安全活動

危険予知活動（訓練）が目指すもの

1. 危険感受性を鋭くする
2. 集中力を高める
3. 問題解決能力を向上させる
4. 実践への意欲を高める
5. 職場風土づくり

危険予知の実施例



<想定状況>

あなたはこの現場に初めて出社しました。
集合時間が迫っており、焦った気持ちで朝礼会場へ向っています。
ゲートをくぐった第一印象は散らかっている現場であり、
「細かい部分にうるさくなさそうだ」と感じています。
通路は左図のような状況です。

**あなたはどのような危険を予知し、
どのようにここを通りますか？**

<解答例>

危険要因（何が危ないのか）	発生事象（どんなことが起きそうか）
複数の脚立を固縛せずに立てかけている場所に強風が吹いたので、	脚立が通路側に倒れ、通行していた従業員に当たり、全身を強打する
水たまりの上を走って通行したので、	足元がスリップして転倒し、頭を強打する
パイプがバラバラに保管されている箇所を通行したので、	パイプに足を挟んで、足首を捻挫する
床にベニヤ板が置いてあることに気付かず通行したので、	つま先がベニヤ板につかかってバランスを崩し、転倒しないよう踏ん張った際に膝をひねる
ドラムコードが床面に這っていることに気付かず発して通行したので、	コードにひっかかって転倒し、手首を骨折する

どのような不安全行動や不安全状態があると考えられますか？



(出典：全日本トラック協会 危険予知トレーニング)

3. リスク低減に向けた安全活動

<回答用紙>

	危険要因（何が危ないのか）	発生事象（どんなことが起きそうか）
1		
2		
3		
4		
5		

	対策
1	
2	

3. リスク低減に向けた安全活動

<回答例>

	危険要因（何が危ないのか）	発生事象（どんなことが起きそうか）
1	合図者がフォークリフトの運転者の死角に入っている	合図者の合図が見えず、荷に押されて合図者が墜落する
2	合図の方法が決まっていない	フォークリフトの運転者が合図を無視して前進し、合図者が荷に押されて墜落する
3	合図者が荷台の外側に背を向けて誘導している	後ろに下がった際にあおり板につまづき転倒する
4	フォークリフトがトラックにぶつかる	衝撃で荷が崩れ、合図者に落下する
5	運転者がシートベルトを装着していない	トラックにぶつかった衝撃で運転者が投げ出され負傷する

	対策
1	合図者は地上から合図を行う
2	合図者はフォークリフトの運転者から見える位置に立つ



4. 本日のポイント

4. 本日のポイント

安全のためのルール

ルール 1 : フォークリフトの点検・定期自主検査を確実に実施しよう！

ルール 2 : 作業計画を定め、関係労働者に周知しよう！

ルール 3 : 前方の視界が確保できないときはバック走行しよう！

ルール 4 : 走行経路を明示し、歩行者を立ち入らせないようにしよう！

ルール 5 : 運転者がフォークリフトを離れる時は必ずキーを抜こう！

フォークリフト安全運転のチェックリスト

<input checked="" type="checkbox"/>	項目
<input type="checkbox"/>	有資格者が必ず操作する体制としているか（無資格者による作業を禁止しているか）
<input type="checkbox"/>	保護具（ヘルメット、シートベルト等）を着用しているか
<input type="checkbox"/>	時間に余裕をもって作業を行っているか（常に慎重・丁寧に作業を行っているか）
<input type="checkbox"/>	作業開始前にフォークリフト（車両）の点検を実施しているか
<input type="checkbox"/>	車両の不備（各部の破損・摩耗等）が見られる場合は、速やかに改善しているか
<input type="checkbox"/>	前後左右の状況を確認してから、車両を発進させているか
<input type="checkbox"/>	走行速度・積載荷重を遵守しているか
<input type="checkbox"/>	急停止・急発進を伴う作業を行っていないか
<input type="checkbox"/>	急旋回を伴う作業を行っていないか（曲がり角等では減速・一時停止しているか）

<input checked="" type="checkbox"/>	項目
<input type="checkbox"/>	ツメを上下動させながら走行していないか（ツメの上下動は車両を停止して行っているか）
<input type="checkbox"/>	段差等を走行する際は必ず減速しているか
<input type="checkbox"/>	適切なツメの幅（例：パレット幅の1/2以上、3/4以下程度）を確保して作業を行っているか
<input type="checkbox"/>	積み荷の安定性（重心および荷重）を確認のうえ、作業を行っているか
<input type="checkbox"/>	貨物を高く積んだ状態のまま作業を行っていないか
<input type="checkbox"/>	視認性が十分でない作業を行う際は、複数名体制で作業を行っているか
<input type="checkbox"/>	貨物はフィルムラップ等で十分に固定対策を講じているか
<input type="checkbox"/>	傾斜面に車両を停車することがないか
<input type="checkbox"/>	車両を離れる際はブレーキをかけ、キーを抜いているか
<input type="checkbox"/>	車両を未使用時はキーを所定の保管場所等で適切に管理しているか

【参考】キーワード_消防法

確認すべき着眼点

- 中国における消防法関連の法規制は、消防法、国家消防行政法規、公安部消防行政法規、地方消防法規等、ざっと足し合わせただけでも400以上にのぼるため、これらの全体像を把握し、個々の対策を講じることは容易ではありません。

消防検査の点検内容および関連する法規・国家基準を基に、**重要かつ検査されやすい項目**を抽出
⇒これらの観点を消防法対策の着眼点としてご紹介

場 所	配電室	危険物倉庫	普通倉庫	甲乙工場	丙類工場	丁戊工場	事務所	サーバ室	消防ポンプ室
設備等									
建築物	●	●	●	●	●	●	●	●	●
防火区画	●	●	●	●	●	●	●	●	●
消火器材	●	●	●	●	●	●	●	●	●
火災検知器	●	●	●	●	●	●	●	●	●
スプリンクラー			●	●			●		
ガス消火設備				●				●	
危険化学品		●		●	●				
特種設備			●	●	●		●		●
防雷	●	●	●	●	●	●	●	●	●
管理ルール	●	●	●	●	●	●	●	●	●

◆建築物

- － 防火壁が設置されていない
- － 非常口の数が不足している
- － 鉄骨造の防火塗料が剥離している …

◆防火区画

- － 防火扉・窓が仕様を満たしていない
- － ダクトが防火壁を貫通している …

◆火災検知器

- － 検知器の数が不足している
- － 検知器の耐用年数を超過している …

【参考】キーワード_安全生産法（リスクアセスメント）

- ✓ 企業が求められるポイントとして、以下の項目が挙げられます。
 - 安全生産責任制の実施、リスクアセスメントの実施
 - 社内における安全生産責任者と管理者の任命・役割の明確化
 - 社内における安全生産に関する教育訓練、安全対策の実施、安全設備の設置・配備

✓ 安全生産法は中国国内で事業活動に従事する様々な形態の事業者（企業・個人事業主含む）に適用されます。

後追い型

（従来の事業場における労働災害防止対策）
既発生災害事例に学ぶ再発防止対策

状況変化への対応不可

技術の進展等により、多種多様な機械設備や化学物質等が生産現場で用いられるようになり、その**危険性や有害性が多様化**

未発生潜在リスクへの対応不可

後追い型の取組みだけでは、労働災害を防止することは出来ない！！

先取り型

あらかじめ潜在リスクを除去・低減する対策が必要

ヒヤリハット **HH** (Hiyari Hat)

リスクアセスメント **RA** (**R**isk **A**ssessment)
危険 評価

危険予知 **KY** (**K**iken **Y**ochi)

- 危険なところを前もって見つけ出す
 - 事前にどれくらい危ないかを評価する
 - 評価の大きさにしたがって対策を打つ
- つまり
「災害発生の**未然防止対策**」

ご清聴ありがとうございました。
ご不明な点やご要望がございましたら、お気軽にご照会ください。

MS&AD

MS&AD Insurance Group

**瑛得管理諮詢（上海）有限公司
（インターリスク上海）**

〒200120

上海市浦東新区世紀大道100号

SWFC 34階 T10室-2

Tel : 021-6841-0611 / Fax : 021-6841-0677

<http://www.inter-shanghai.com.cn>